

4 月定例記者会見 会見録

令和3年（2021年）4月9日（金） 11:00～12:00 庁議室

質疑応答

■つくば市SDGs未来都市計画（2021～2023）の策定について

記者A

SDGsというどうしても抽象的なことになりがちですが、今回の新しい計画で、前回との大きな違いと、今回の内容の目玉がありましたら伺います。

市長

今回内閣府の様式で追加更新となった項目が、資料26ページの「自律的好循環の形成」と、27ページの「地方創生・地域活性化への貢献」という部分です。「自律的好循環の形成」は、登録と認証制度が重要な位置付けになると考えています。市としては、現計画の段階でつくばSDGsパートナーズを立ち上げていますので、この活動をさらに発展させていきたいということと、「地方創生・地域活性化への貢献」は、地方創生推進交付金を活用したプロジェクトがありまして、これが2021年度までの事業になります。具体的には小田小学校跡地の利活用や、周辺市街地の活性化、体験型の科学教育、地産地消レストランでの事業で、これは未来都市計画でも位置付けているので、引き続き更新後も、より充実をさせていきたいと考えています。

記者A

SDGsは、全国的にどの自治体も力を入れ始めていると思いますが、つくばらしさが出ている点を伺います。

市長

つくば市はもともと、日本の自治体で一番に持続可能都市ヴィジョンを出して、その後、持続可能都市宣言を行っています。また、「これからのやさしさのものさし」という新しい視点をこのSDGsを通して取り組み、そういう理念のもとに、きちんとそれぞれの計画を作り込んでいますので、この政策がつくばらしいと一例を挙げるのは難しいですが、きちんとした理念と様々なディスカッションに基づいて、丁寧に計画を作り込んでいるということが非常に重要だと思っています。

■第3次つくば市生涯学習推進基本計画の策定及び図書館について

記者B

生涯学習基本計画に図書館のことが触れてありますので、この機会に伺います。
つくば市の図書館は、従来からずっと施設の不自由さもあり、人口に見合った蔵書を担保されないということは、前から指摘されています。
調べ物をしようと思っても、つくばの図書館にはないことが多く、正直言って土浦市や県立図書館に行くことの方が多いです。
検索しても、「やはりつくばにはなかった」ということが多く、残念なことが多いです。
そういったことは市としては重々認識されていると思いますが、今後図書館をどのようにしようと思っているのか、今回の資料ではなくても基本方針でも良いので、わかりやすく説明してもらえませんか伺います。

市長

図書館では図書館運営方針を作成しています。その中でふれあいライブラリーパークという概念で、特に中央図書館は公園等、周辺環境を生かした形を検討していくとか、あるいは筑波大学とは、おそらく国立大学の図書館との連携も県内で初めて行っています。そういう事業を行って、既存のリソースをまず最大限に活用して、充実させていこうという方針を掲げています。
ただ、一方で記者がおっしゃったように、これだけ大きな街になっていますので、今の図書館がそのニーズになかなか応えきれてないということも認識をしていますが、それも計画の中で3段階ぐらいに分けて、毎年度図書館を充実させていくこととしながら、その先で、その必要性というのもきちんと考えていこうというステップを踏んでいます。よろしければ、後で現在の図書館の計画についてお渡しをしたいと思えます。

記者B

これは希望として申し上げますが、図書館の基本構想を読むと、そこで強調されているのは移動図書館であるとか、図書館の中にカフェを作るとか、そういうソフト的なことが非常に多くあります。やはり図書館の命、肝は蔵書であると思えますので、蔵書の充実にもう少し深く考えてもらいたいと思えます。

■つくば市のLINE利用について

記者C

LINEが中国の業務委託会社で閲覧可能になっていた件がありましたが、つくば市では何か対応をされたか伺います。

政策イノベーション部長

庁内業務でのLINEのサービスの利用に関しては、庁内で調査を行ったところ、つくば市公式LINEアカウント及びLINEペイ請求書払いを利用していることを確認しています。ただし、いずれも個人情報を取得する行政サービスは行っていない状況です。総務省からも調査が来ていまして、こちらについても同様に回答しています。

記者C

別に対応などはしてないということでしょうか。

政策イノベーション部長

これまで通り、個人情報の取得は行っていませんので、運用については、特段今回の件を受けて変えているということはありません。

記者D

今までの会見のやりとりで記憶しているところだと、今後、LINEをワクチン接種の予約にも使うことを予定していたかと思います。現在新型コロナウイルスワクチン接種対策室に問い合わせをしているところではありますが、改めて伺います。

新型コロナウイルスワクチン接種対策室長

ワクチン室の予約システムは、LINEと異なるウェブサービスへのリンクを案内する仕組みとなっておりまして、LINE自体を使用せずに市のホームページから直接、ウェブサービスへアクセスすることも可能となっております。

今後ウェブサービスの準備ができ次第、予約システムの利用開始についてお知らせしたいと思います。

記者D

確認ですが、個人情報を取得することや、LINEで何かをするというシステムではなく、システムにアクセスするルートがLINEになっているだけなので、今後、予約を始めるときにも、LINEは予定通り、システムの入口として使うという認識で良いか伺います。

新型コロナウイルスワクチン接種対策室長

はい。そちらに関しても、今後検討していくところです。

■高エネ研南側未利用地の利活用について

記者E

先週、プレスリリースで、高エネ研南側の未利用地の利活用に関して、サウンディング調査を開始するというお知らせがありました。1ヶ月ぐらい前に、議会で3分の1ぐらいの土地に防災倉庫とヘリポートを中心にした活用をしたいと説明がありました。それはもうやめたと捉えて良いでしょうか。プレスリリースには全くそれについて触れていないし、サウンディング調査をするのであれば、参考として、市として考えている方針も記していないと、サウンディングに応じる業者には、情報不足になるかと思いますが、この件についてはやめたのか、残っているのか伺います。

市長

当時の議会でもご説明した通りですが、議会でも公共利用、防災拠点として、残りの土地をサウンディングすると申し上げていますので、何も変更していません。

記者E

案は残っているということだと、このプレスリリースは極めて失礼だと思います。そういう案がありますということ、注釈などで書いておかないことには、初めて市の発表を読んだ業者は、いちいち問い合わせ確認作業をしなければいけないと思うのですが、お考えを伺います。

市長

サウンディングそもそもがそういう対話ですので、事業者のお考えを伺う、そして市の考えをお伝えする、そのやりとりを場合によっては複数回行うわけですので、何か一つの手法ですべてを伝えたり、何か1枚の紙を提出して終わりというものではありませんので、懸念については心配ありません。

記者E

市の案としては残っていますということなので、サウンディングを受けて、それを参考にして今後使い道を考える場合は、一応、防災倉庫案も頭に置きながら選択することになるのか伺います。

市長

はい。当然そうなります。

■新年度、新体制における抱負について

記者D

新年度、新体制でスタートするわけですので、今年度あるいはこの直近しばらくの間、
どういう課題に取り組んでいくのか、市長に改めて抱負を伺います。

市長

所信表明で申し上げた通りのことを行っていくということですが、当然、重要課題も
数多くあります。先ほど質問にあった高エネ研の問題もありますし、中心市街地に関
しては、新しくまちづくり会社が4月1日からスタートしていますので、ここを推進
力に様々な事業を行っていきたいと思います。

学校建設も、今後5年間で少なくとも5校作っていくということで、今非常に多くの
仕事を抱えているわけですが、そういった事業は確実に学習環境を整えることが重要
ですので、整備をしていきたいと思います。また、関連する学童や保育施設の整備な
ども数多く課題があると思いますので、それは丁寧に、そしてスピード感をもって
進めていきます。

それらの取組を行いながらも、最大のテーマは新型コロナウイルス対策ですので、市
民生活と地域経済をどう守るかということで、国からのワクチン供給量を見ながら、
それをどうしていくかなど、体制は万全に整えています。国から届いた分は遅滞なく、
ワクチンを打つことができるよう確実に進めていくことが、おそらく今年度の非常に
重要なテーマであり、同時に地域の経済対策という意味でも、今も様々なご相談を受
けていますので、そういったものを丁寧に一つ一つやっていくということがあります。
そういうことも含めて、本当に課題は多くあるわけですが、今まで進めてきた事業も
含めて、推進力を持って進めていきたいと思っています。更に今年度新しい組織をい
くつか作りました。組織開発のための室や自転車のコミュニティを作っていくための
室、データを利活用していく室があります。そういうものも最大限に生かしながら、
様々な事業を進めて行きます。

また、スーパーシティの申請を全力をあげて進めてもらっていますので、何とか採択
されるように、これも力を尽くしていきたいと思っています。言い出すときりがない
ので、全庁挙げてしっかりと取り組んでいきます。

■つくば中心市街地まちづくり戦略について

記者E

1ヶ月前の記者会見の時に質問しましたが、まちづくりデザイン会社の社長の報酬に
ついて、その時点ではまだ設立に至ってないのでお答えできませんということでした。
もう会社が設立されたと思うのですが、代表取締役社長の月俸もしくは年俸はいくら

か伺います。

市長

株主総会で決まるので、そこで決まればお答えします。

■プラスチックごみの収集について

記者B

今年の4月に期待していたのが、プラスチックごみの収集回数の増加です。2週間に1回しかなく、今年度に週1回ぐらいに収集回数が増えると期待していたら相変わらず2週間に1回です。

ごみの分別を真面目にやると、可燃ごみは全然溜まらず、プラスチックばかり溜まります。

あっという間にプラスチックのごみ袋ができるのに、うちの地区は、来週水曜までごみを出せないと思って本当にストレスが溜まります。

プラスチックのごみを収集すると言いながら2週間に1回しかやらないのは、「環境行政を頑張っています」とやっているふりをしているようにしか見えないところもあります。

こういった意見を持っている市民は私以外にもたくさんいると思うのですが、その辺りのお考えを伺います。

市長

非常にお気持ちはよくわかりまして、プラスチックごみは本当にすごい量が出ます。私も分別していますのでよくわかる部分でもありますが、その先をつくば市は行きたいと思っています。確かに量が多くて大変ですけれども、収集回数を増やすとその分、コストが1件数千万単位で上がります。やはり色々のご意見をいただく中で、環境等に詳しい関係者等とも話をし、「増やした方が良いですか」と聞くと、「そんなことはない。色々な意味でコストをかけないで、それぞれが努力できる場所でしていく環境を作るということも非常に重要。生ごみと違ってプラスチックごみは、ある程度保管をしても匂ったりするものではない。そういった理解をしてもらうことも一つの大きな仕事。」とお話をいただいています。ただ、ご理解いただく部分の努力というのは、まだまだ足りていないと思います。

臭くなってどうにもならなくなるものとは違いますので、そこは市民の皆さんにご負担をおかけしますが、その行為自体が環境負荷も下げているということも、我々はもっとお伝えしなくてはいけないと思います。

実は、市民の皆さんの疑問にお答えする「市政情報かわら版」というものを、今回、コロナワクチンの話題を取り上げ、発行していて、わかりやすいと好評をいただいています。今後、ごみ、資源、リサイクルあるいはプラスチックといったことをテーマにしたものを出したいと思っています。そこで、「どうして月2回しかプラスチックの収集がないのか」というような質問を出して、それに対して今、私がお答えしたことも含めてお答えできればと思いますので、ご協力をいただけると大変ありがたいと思います。本当に量が多いというのは、それだけ丁寧に分別してくださっているからと思いますので、ぜひ、それは引き続きご協力をしていただきたいと思います。

記者B

これも意見ですが、生ごみと違って、匂いが出ないからストックできるだろうという考え方はありますが、それは広い家に住んでいる人の意見だと思って、ちょっとがっかりします。つくば市には筑波大学などの学生も多くいます。

私は単身赴任で駅前の狭いマンションに住んでいますので、そういう人間にとっては大変つらいです。

そういうことも配慮していただきたいのと、多分、プラスチックごみというのは無料で収集していますから、回数が増えれば増えるほど市の経費の方が増えることは想像しています。

それならば多少有料で収集しても、協力する市民もいるような気がしますので、その辺りを考えてもらえたら有り難いです。

終了